

2026年1月15日

課題名：上腕二頭筋長頭腱の異常所見と Subcoracoid Effusion は肩甲下筋断裂の予測に有用か

※Subcoracoid Effusion＝烏口突起下滑液包貯留

◆研究の目的と概要◆

当院では、肩甲下筋断裂について調べています。本研究では、早期発見を目指し、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020年1月から、2024年12月までの間に、当院のMRIで撮像後、鏡視下腱板修復術を行われた方

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究は上記の期間に当院で手術を施行した方の診療記録をもとに情報を確認させていただきます。性別、身長、体重、手術時の年齢、術前MRIの腱板断裂の画像所見ならびに手術中の腱板断裂の有無や断裂の広がりについて調べます。

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026年3月4日

◆研究方法◆

既存の診療記録および術前MRI画像を用いた後ろ向き観察研究です。通常のMRIでは診断が困難とされる肩甲下筋(subscapularis: SSC)腱断裂に対し、上腕二頭筋長頭(long head of the biceps: LHB)腱の異常所見(正常・亜脱臼・脱臼・消失)および烏口突起下滑液包貯留(subcoracoid effusion: SE)という評価可能な間接的なMRI所見に着目しました。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

整形外科 研究責任者 相江 直哉

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@へ変換ください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明